

令和4年度 学校評価 自己評価書(後期)
(教職員18人, 生徒158人, 保護者69人)

4:よくできている 3:できている 2:ややできていない 1:できていない

学校教育目標 「志や誇りをもち、心豊かにたくましく未来を切り拓く生徒の育成」

1 「志や誇り」

(生徒) すべての項目において、0.01~0.07ポイント増加している。最も低いのは「地域活動・家庭での手伝い」であった。

(保護者) すべての項目において、0.03~0.1ポイント増加している。最も低いのは生徒同様「地域活動・家庭での手伝い」であり、家庭での手伝いや地域の活動への参加などについて各家庭への呼びかけが必要である。

(教職員) 進路・キャリア教育においては高い意識をもって取り組んでいる(平均値は前回と変わらず3.25)。一方、地域や国際理解教育については生徒保護者同様、値が低かった。

→ 過去のデータでも、保護者・学校ともに将来のことや進路についてなど、キャリア教育に関しては低く出る傾向がある。引き続き、学校におけるキャリア教育の内容やその様子を発信するとともに、家庭でももらいたい進路学習や体験活動、さらには家庭での手伝い・地域での活動参加などを啓発していく必要がある。

2 「心豊かに」

(生徒) あいさつの項目、いじめの項目の数値が高く、意識がなされている(あいさつ3.2, いじめ3.51)。一方で人権に関する意識、ボランティアに対する意識、読書に対する意識が低い結果であった。

(保護者) いじめの項目、あいさつの項目、他者への人権の大切さに関する項目はそれぞれ高かった。家庭における読書の推進は、前回と比べて0.16ポイントの増加で、保護者が読書の推奨に取り組んでくれている現状がうかがえる。

(教職員) あいさつと読書の項目が0.2~0.4ポイントの減少が見られた。学期が進む中で職員自身の「あいさつ励行」や「読書の推奨」に対して、積極性に欠けたという自己反省によるものであると考えられる。

→ 「心豊かに」の項目では、人権感覚について生徒・保護者・職員のすべてで向上が見られた。一方で、いじめに対する取組がすべてでわずかながら下がっていることを念頭において、組織的ないじめ防止・不登校の未然防止の取組を続けていく必要がある。

3 「たくましく」

- (生徒) 規則正しい生活の心がけが、前回より0.07ポイント増加した。一方、ストレスマネジメントが2.8ポイントと低く出ており、数値に変化がない状況である。
- (保護者) コロナ対策については十分高い結果が得られた。規則正しい生活では、前回生徒との間に見られた意識の差異が解消されてきている。メディアの使い方の指導などについては、保護者の指導にも困り感がある可能性がある。
- (教職員) 学校体育や食育については、高評価であった。健康教育、ストレスマネジメントにおいて低い結果であった。

→ 「たくましく」の項目では、全体的にストレスマネジメントの指導や言葉かけが課題である。また、メディアの使い方については、通信やPTA時の共通理解や啓発が引き続き必要である。

4 「未来を切り拓く力」

- (生徒) 自ら学ぼうとする姿勢は、前回に引き続き高く自己評価している生徒が多い。タブレット端末の活用についても高評価であった。予習・授業・復習のサイクルを確立させているかという項目は保護者ともに低かった。
- (保護者) 学習に関する項目はいずれも前回を下回ってしまう自己評価がされている。中でも学習サイクルについての評価が低かった。予習・授業・復習のサイクルを確立させようと促すことが課題である。
- (教職員) どの項目も「よくできている」と回答していることが多いが、タブレット活用や学習サイクルについてポイントが下がっている。

→ 「未来を切り拓く力」の項目では、学習指導で全般的に高評価である。今後は、学校の取組について、自宅では具体的にどのように取り組めばよいかを提言するなど、保護者と協力しての「学びのデザイン」に取り組む必要があるのではないかと。